

必ずお読みください

無垢フローリングの保管・施工について

この度は弊社製品をご採用頂きありがとうございました。無垢フローリングは、空気中の水分を吸収又は放出する働きがあります。その結果として「膨張」「収縮」などを生じ施工状況によっては、不都合を引き起こす場合があります。より良い仕上がりにつなげるために、下記の要領に則って施工してください。なお、当製品は内装用です。外装には使用しないでください。

無垢フローリング

根太組み工法用

施工説明書

↓ 根太工法

※施工前に確認

- 雨の降りこみ等により、下地材が濡れた状態での施工はやめてください。目隙・変形・床鳴り等の原因となります。
- 換気口は充分ですか(建築基準法施工例:外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- ※ 床下の換気が充分でない場合、施工後に「曇れ」「突き上げ」「床鳴り」が発生する恐れがあります。

無垢フローリング

二重床工法

施工説明書

二重床工法 ↓

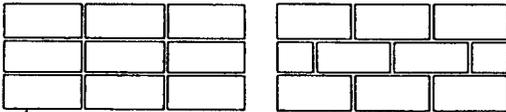
※施工前に確認

- フローリングを施工する前の状態において、床鳴りがしないことを確認してください。
- ハードパネルの下地合板と、その周辺部に貼る合板はタイプⅠ合板を使用。
- 換気口は充分ですか(建築基準法施工例:外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)

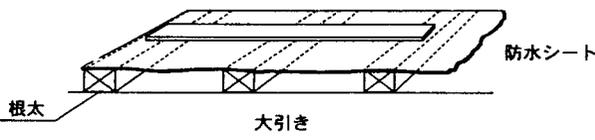
1 下地施工

↓ 根太工法

- 大引きは90mm角以上の乾燥材を使用し、間隔は909mmピッチとしてください。
- 根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで厚みを揃え303mmピッチで施工してください。
- ※ 乾燥材の目安 含水率20%以下
 - ・ 乾燥材を使用しないと施工後根太が乾燥し、振れたり、痩せたりして踏みなりの原因となる場合があります。
 - ・ 根太の厚みが一定でないと根太高に差が生じ、踏みなりの原因になります。
- 無垢フローリングの施工の際は、必ず厚さ12mmの耐水合板を捨て張りしてください。施工は3尺ずらしとし、接合部に2mm程度の隙間を設けてください。



尚、床下の風通しを良くし湿気がこもらないようにしてください。湿気が多い場合は0.1mm厚以上の防水シートを根太と合板の間に敷き込んで施工してください。



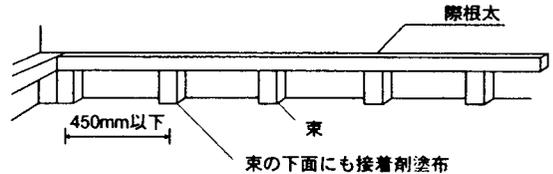
- 床上に重量物を置く場合は根太間隔を狭くするなどの床下の補強を行なってください。

二重床工法 ↓

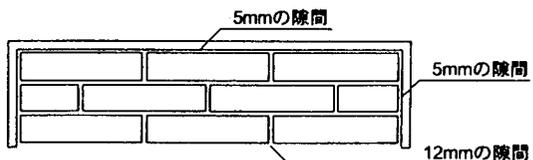
地下の施工はメーカーの施工説明書のそって正しく施工してください。

◆主な注意点◆

- 床コンクリート打設後、3週間以上の養生期間をとってください。養生期間が短いとコンクリートの水分でトラブルの発生原因となります。(床の波うち、盛上がり)
- ※特に冬場はコンクリートスラブの乾燥が遅くなりますので4週間以上の養生が必要となります。充分注意してください。含水率10%以下
- 際根太をしっかり固定してください。



- パーティクルボードの割付は必ず3尺ずらしにしてください。壁は5mm程度の隙間 ボードのジョイント間は12mmの隙間



- 捨貼合板はベースパネル(パーティクルボード)の長さと同直交するように施工し、且つベースパネルのジョイントと捨貼合板のジョイントは100mm以上離して割付してください。釘は300mm以下の間隔で施工してください。釘はベースパネル下面に貫通すると、床下配管を破損する恐れがありますので30mm長さ程度のボード釘を使用してください。
- ※ 遮音下地を使用する場合は支持脚の沈み量が大きい為、床鳴りしますので接着剤(ジカボンド)を併用してください。

2 仮並べ

根太工法・二重床工法／共通施工

- 天然木ですので、色合い、木目が同一のものはありませんが、施工後色調、及び木目の偏りがないようにあらかじめ仮並べをしバランスよく施工してください。
- ※極端に色柄の異なったものがありましたら、施工前に弊社営業まで連絡くださいますようお願い致します。
- ※無垢フローリングは合板基材の複合フローリングに比べ吸放湿による寸法変化が大きく、又施工時の気候、季節、地域差の影響もありますので、施工前に開梱し、施工場所の雰囲気になじませてから施工してください。

3 割付

根太工法

- 下地合板のジョイント部と無垢フローリングのジョイント部がかさならないように割り付けをしてください。
- 木口部のジョイント部が根太上にくるように割り付けをしてください。

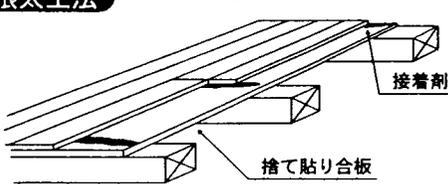
二重床工法

- 下地合板のジョイント部と無垢フローリングのジョイント部がかさならないように割り付けをしてください。

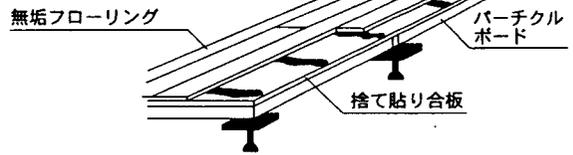
4 下地への固定

根太工法

①下地への固定は糊釘併用とし、接着剤(アクリル系弾性接着剤)をご使用ください。



二重床工法

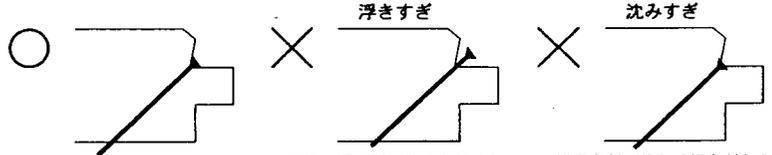


4 下地への固定

根太工法・二重床工法／共通施工

◆釘打ち施工の場合◆

- 無垢フローリングの雄実部に直接釘打ちすると、実部が欠けたり、割れたりする場合がありますので、予めドリルで直径2mm程度の導き孔をあけてから釘打ちしてください。(割れたまま施工すると踏みなりが生じる場合がありますので、充分注意してください。)
- 釘打ち部の下地合板上にネダポンを塗布し、雄実部に38mm～50mm長さのフロー用スクリーネイルを使用し45度の角度で打ち付けてください。
- 釘頭はポンチで確実に締め付けてください。

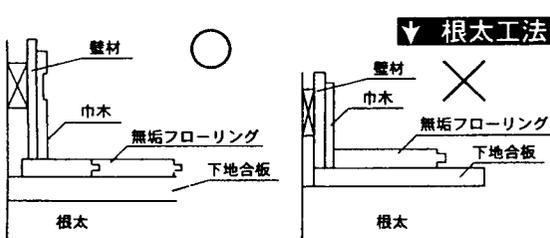


雄実上部が彫れる場合がある。 雄実上部が彫れる場合がある。

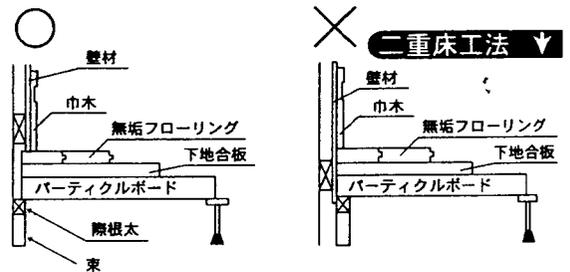
- 釘打ち部の下地合板にネダポンを塗布し、雄実部に38mm～45mm長さのステーブルを45度の角度で打ちつけてください。(極端に角度がずれると、割れたり、打ち込み不良になりますのでフローガイドを取り付けて施工してください。)
- 無垢フローリングの場合、樹種毎の硬度も様々ですし、又同一樹種でも硬さにバラツキがありますのでエアークの調整は充分に行なってください。

※樹種によっては使用できない場合があります。その際はフロー用スクリーネイルでの釘打ち工法をお願いします。

- ①サネは強く叩き込みすぎないようにしてください。膨張時の反りを防ぐため、名刺1枚～2枚分程度の隙間を設けてください。
- ②壁際は突き付け施工はせず、必ず5mm以上の隙間を設けてください。



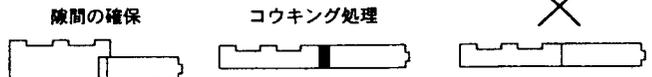
根太工法



二重床工法

根太工法・二重床工法／共通施工

- ※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。吸湿時に無垢フローリングが膨張して不具合が生じますので厳守願います。
- 施工終了後は必ず養生してください。養生シート、弱粘性性床養生テープをご使用ください。



保管上の注意

- 水がかかりやすい箇所、湿気の強い箇所、直射日光の当たる場所での保管は避けてください。
- 保管には、水平な場所に同じ高さの3本のリングを置いて水平に保管してください。